

令和 3 年度 第 2 回環境審議会であつたご意見への回答

令和 3 年度第 2 回環境審議会において、ボランティアに参加して下さる方々の高齢化について議題となり、今後が不安である旨の記載を加えたほうが望ましいのではないかというご意見をいただきました。

その後事務局で協議した結果、「市民ボランティア活動に参加する市民や事業者の育成をおこなう」行動計画に基づく 2 本の施策の指標について、評価を以下のように改めました。

また、今後の対応については資料 1-3 にてお示いたします。

施策：市民と市民ボランティアとの交流の場の提供		
指標 No26	エコギャラリー 参加団体数	評価 B
評価理由	令和 3 年度環境審議会での報告	修正後
	エコギャラリーにおいて市民ボランティア活動を周知する場を設けることにより、メンバーの活動意欲につながっているものの、参加団体数を増やす工夫が必要である。	エコギャラリーや環境フェアにおいて市民ボランティア活動を周知する場を設けることにより、メンバーの活動意欲につながっているものの、様々な世代の参加団体数を増やす工夫が必要である。

施策：市民ボランティアへの支援		
指標 No27	環境団体 登録団体数	評価 B
評価理由	令和 3 年度環境審議会での報告	修正後
	いちかわこども環境クラブと連携して、市民ボランティア団体の活動の場を知ってもらうことにより、市川市の自然について市民が体験を通して学んでいるものの、環境団体の登録数を増やす工夫が必要である。	いちかわこども環境クラブと連携して、市民ボランティア団体の活動の場を知ってもらうことにより、市川市の自然について市民が体験を通して学んでいるものの、ボランティア団体の高齢化などにより今後の活動に不安もあることから、様々な世代の環境団体の登録数を増やす工夫が必要である。

令和3年度 第2回環境審議会開催後にいただいたご意見への回答

(1)2020年までの「生物多様性いちかわ戦略」の体系の評価の確定について

指標 No12:在来種の生息地の状況		道下委員
ご意見	じゅんさい池も淀んでいる状況で、イノカシラフラスコモも今生存しているかどうか疑問ですとの意見もお聞きしました。ここで2025年に向けてAはどうかと思います。	
回答	<p>・イノカシラフラスコモについてですが、浅井戸から直接水の供給を行っており、順調な生育状況を確認できていることから評価をAといたしました。</p> <p>今後もイノカシラフラスコモの生育に適した井戸水を提供する等の維持管理や、水質調査、生育状況の確認をまいります。</p> <p>・ご心配いただいております、水の淀んでいる原因と考えられる深井戸に関しては、ポンプの故障により2019年より水の供給が出来ていませんでしたが、今年度修理の予定となっており、深井戸からの水の供給が見込まれています。</p>	

指標 No28:生物多様性に関する講座への参加者数		道下委員
ご意見	コロナ禍でこの取り組みは難しいですが、年間200名の参加者でA評価をつけるのは、48万都市として目標が低いと思います。市民の環境への関心が少ないということなのかもしれません。	
回答	この講座は自然環境政策専門員がおこなっており例年人気の講座となっています。2014年に設定した達成目標である200人/年の目標は達成できたことから評価をAとしておりますが、今後はより多くの市民の方に興味をもっていただけるよう、2025年に向けての目標を350人/年とし、講座の開催をしていきます。	

指標の評価について		本多委員
ご意見	<p>評価が目標を達成できなかった指標は、特に取組(行動)を伴うもの。コロナによる行動自粛により結果がでていないものであると思われます。</p> <p>A評価のものは、行政の政策対応により結果がでているものと思われます。評価C, Dについては今回の2020年の段階で評価せずに次期「戦略」の体系の見直し(指標達成、目標の見直し)とするのはどうか。</p>	
回答	<p>・評価 R「施策を評価するために、さらに適切な指標を検討する必要がある」と評価された指標については、この度、施策を適切に評価できる指標を検討しました。</p> <p>ご指摘のように、次期戦略の策定時に検討する方法もありますが、次期戦略に向けた準備として、今回施策をどの様に評価をしていくことが望ましいか検討したところ、施策を評価できる指標に改めることとしました。</p> <p>・行動を伴う事に関わる指標については、指標の見直しや達成目標の設定を改めています。現状のままでは目標の達成は困難であることから、取り組みを強化していきます。</p>	

(2)「生物多様性いちかわ戦略」の体系の見直し方針について

指標 No1:行徳近郊緑地特別保全地区内の生物多様性の状況		道下委員
ご意見	2020 年達成目標で A 評価なので生物多様性の持続ではありませんか。	
回答	行徳鳥獣保護区で確認される鳥類の種類は、毎年 90 種類前後と安定して推移していることから評価を A としています。 ご指摘のとおり、評価を A としておりますが、昔の湿地環境に近づける整備が進むことで湿地の鳥類の増加も期待されることから、達成目標「生物多様性の回復」を継続していきます。	

指標 No18-2:指定無形民俗文化財への補助		道下委員
ご意見	文化財の補助金が増やせるといいと思います。	
回答	現在補助金を増額することは検討されていませんが、担当課に伝えて参ります。	

指標 No26:参加団体数		道下委員
ご意見	勿論エコギャラリーの開催もありますが、30 年以上開催している環境フェアは市民と市民団体との一番の交流の場だと思います。	
回答	ご指摘のとおり、環境フェアも大切な交流の場であることから、評価に追記いたしました。	